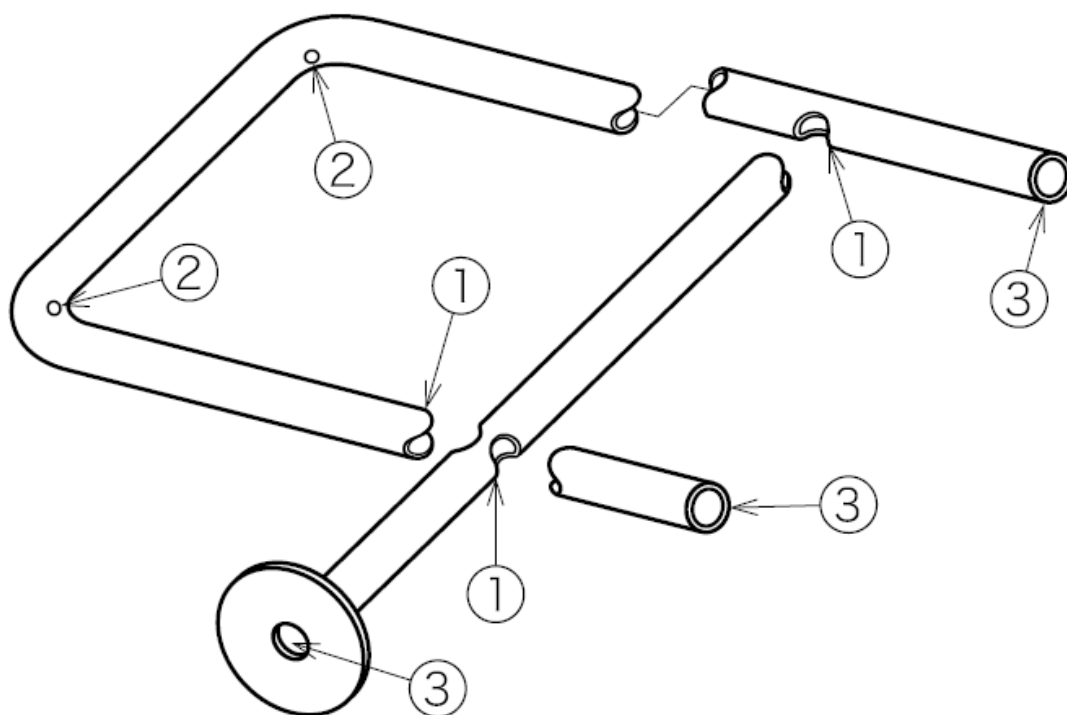


予防処置を必要とする素材

手摺などパイプ構造の場合

部材に密閉構造部がある場合、めっき浴に沈みませんのでめっきすることができません。

また、めっき温度で加熱され内部の空気、水分、油分などが急激に拡張して爆発事故を引き起こすことがあります。



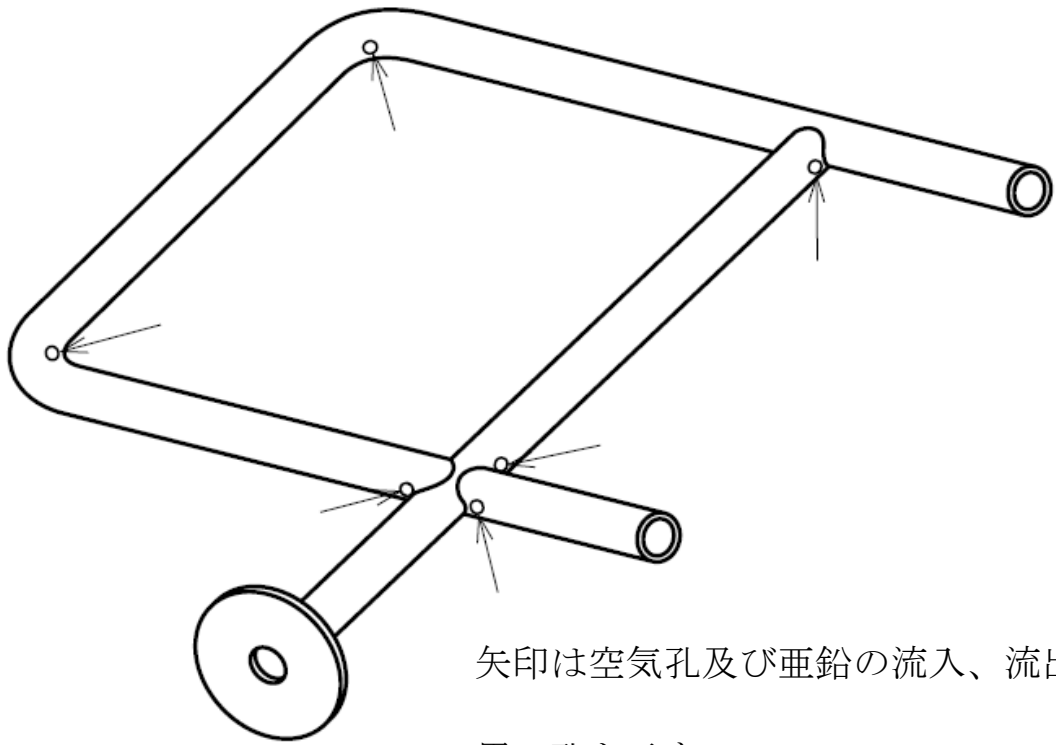
①接続部は接続パイプの内径に等しく開放してください。

②端部はできるだけ内径に近い大きな孔をあける。

③取付け部などは全て解放にしてください。

密閉が必要な時はめっき後に加工してください。

接続部にパイプ内径と同じ大きさの孔をあけることができない、またはパイプ各々が密閉状態にある構造体は、図のように接続部、先端部、角部分に多くの空気孔及び亜鉛の流入、流出用の孔が必要である。(下図)



矢印は空気孔及び垂鉛の流入、流出用の孔を示す。

「日本規格協会発行 JIS H 8641」一部引用